

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究
分担研究報告書

「小児科医の在宅移行への障壁に関する検討」

研究分担者 余谷 暢之
国立成育医療研究センター 総合診療部緩和ケア科 診療部長

研究要旨

小児がん患者を診療している医師の在宅移行への障壁を明らかにするための質問紙調査の前段階として調査のための質問紙の作成を行った。行うことを目的とした。先行研究を元に専門家討議を行い、質問紙の作成を行った。実践については これからの話し合い 在宅医療チームとのコミュニケーション 資源についての項目を、障壁については 医師の価値観 診療の障壁 資源の障壁についての項目が上がった。今後パイロット研究を行った後に本調査を行う予定である。

A. 研究目的

小児がん患者を診療している医師の在宅移行への障壁を明らかにするために、小児がんを専門に診療している医師を対象に質問紙調査を企画した。本年度は調査のための質問紙の作成を行うことを目的とした。

（倫理面への配慮）

本研究は質問紙作成を目的とするため、倫理面への配慮は特に必要ないと考えた。

B. 研究方法

Miyashitaらが成人の医師を対象に行った在宅緩和ケアに関する知識、態度、困難感についての研究をもとに研究協力者である小児がん診療に携わる医師3人、分担研究者である緩和ケア医師1人、チャイルドライフスペシャリスト1人による専門家討議を行い、質問紙を作成することとした。

C. 研究結果

検討の結果、実践についてと障壁について以下の3つの大項目と課題が質問紙の内容として挙げられた。

実践について

これからの治療についての話し合い（本人／保護者）

- ・ 普段のコミュニケーション
- ・ 今後の治療について
- ・ 予後について
- ・ 治療場所について

在宅医療チームとのコミュニケ

ーション
・ 普段の交流の頻度
・ カンファレンスの機会
・ 専門の担当部門の有無
・ 在宅移行後のコミュニケーション

ーション
・ カンファレンスの多職種に参加

資源について
・ 緩和ケアチーム
・ 小児を見られる在宅医
・ 小児を見られる訪問看護
・ 自施設がバックベッドとして可能

障壁について
医師の価値観に関する項目
・ 最期まで治療すべき
・ 在宅移行は根治をあきらめているようである

診療における障壁
・ 再発告知すること
・ 予後を伝えること
・ これからの病状経過を伝えること
・ 療養場所に関する話し合いを始めること

資源の障壁
・ 地域連携が不十分
・ 在宅ケア体制が不十分
・ 開業医が末期がんを見られない

・ 在宅医療の情報不足（医師）
・ 在宅医療の情報不足（家族）
・ 在宅移行についての情報が十分に家族に伝わっていない

D. 考察

専門家討議により、質問紙案の作成を行った。今後、10人程度を対象にパイロットで質問紙に回答頂き、回答のしやすさについてコメントを頂いた後に本調査を行う予定とする。

E. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし